

平成25年度第6回 新たな市政運営の総合的な指針に係る庁内策定検討
委員会

日時 2013年7月11日（木）

午前9時15分

場所 災害対策本部室

日 程

1 開会

2 議題

(1) 検討委員会及び専門部会の開催結果について（資料1-1, 1-2）

(2) 分野別重点課題・重点施策の選定について（資料2-1, 2-2）

(3) （仮称）新たな市政運営の総合的な指針の構成内容について（資料3）

(4) その他

3 閉会

（事務局 企画政策課 内線2171）

平成 25 年度第 5 回 新たな市政運営の総合的な指針庁内策定検討委員会議事概要

1 日時 2013 年 6 月 27 日 (木) 午前 10 時 15 分～11 時 10 分

2 議題

(1) 検討委員会及び専門部会の開催結果について (資料 1 - 1～1 - 3)

資料 1 - 1 (第 4 回検討委員会), 資料 1 - 2 (第 5 回専門部会), 資料 1 - 3 (第 6 回専門部会) について, 議事概要として説明した。

- 質疑なし。

(2) 議員全員協議会の開催結果について (資料 2)

資料 2 について, 議事概要として説明した。

- いただいた意見を確実に実施していきたい。策定の考え方を市民に広めていくのは構わないが, やり方やどのタイミングでやるのかという点は調整をして進めたい。
- 前々から概ね理解はいただいているという認識である。意見としては, 進めることを是とした意見として捉えて良いと思う。ポイントは多くの市民の声を聞いたかということかと思うので, 今後の意見交換会等の持ち方は十分に検討していく, 例えば新たな手法の採用等についても実施していかなければならない。広報周知については, 市長からの声を伝えること, 毎号進捗を示す等を実施していきたい。重点方針については各部の施策がどの程度反映できるのかが部長の力量であるし, 重点施策には予算も人もつけていくような流れが必要であるとも考えている。
- 一定の理解はいただいていると考えている。分野別の重点課題調査のなかで, 対応を検討して, 長期的な視点, 困難性の高いものを棚上げにせず取り組んでいるということを明確にしていかなければならない。そのことが市民, 議会からのご理解をいただくために必要であると考えている。引き続きよろしくお願ひしたい。
- 今後 7 月末に市民, 関係団体向けの説明会, 意見交換会を実施する。情報発信という意味では理事者に出席いただくべきか。
 - ワークショップ形式とは具体的にどのような運営を想定しているのか。

- ◇ 基本目標の案をもとに集まっていたいて、意見交換をいただき、発表という流れである。グループでの意見交換については生の声を出していただく目的である。事務局としては、部長を含め、理事者が議論に参加するという事は、あまり想定していなかった。
- ◇ 市長の生の声でということであったが、文書、メッセージでということは可能か。
- ◇ 可能である。出席のお礼と見直しの理由をメッセージカードに示すような方向で進めたい。
- ◇ 部長には関係団体に意見聴取していただくことをきちんとやって欲しい。商議所、医師会等だけでなく、小規模多機能事業者なども含めて、生の声を含めた重点化作業を進めてほしいと思う。今回はどのような対象を設定しているのかによるが、問題意識の高い市民の方であると思う。今までにない形で意見聴取を進めているという姿を示すためにも、部長、課長に関係団体に広く聴取していくという方向では進めて欲しい。
- ◇ 秋は無作為抽出で一般市民に対する事業レベル。今回は施策中心なので、ある程度認識、知識、活動をお持ちの方が多と思う。関係団体には専門部会から声掛けを想定している。
- ◇ 特定課題に特化したことを言いたい方が集まられるのではないか。これまでの対象以外の方にも広げていきながら、話がかみ合うようにして進める必要がある。
- ◇ 待機児童の解消で例にとれば関係団体に意見を聴取することは難しい。子ども子育て新システムの検討途上であり、審議会からの意見聴取が限界であるかと思う。
- ◇ 指針には短期的にスピード感を持って、重点課題という形で既に絞られている。各部の判断で重点的にやるんだということなのか、関係団体に声を聞いた上で決定していけということなのか、最終的に重点施策にならなかったことの説明責任が生じてしまう。
 - 短期間で行政が決定しているというスタンスで良いのだが、意見を反映するというということではなく「聞く」というと

ころを設定していくことが必要である。策定後の説明も丹念に行う必要がある。日常の対話が施策に反映していくことは当然、意見、声を聞くプロセスというところが必要である。

- ◇ 分野別の重点課題を意識していただいて、ワークショップを進めていく必要があると思う。湘南大庭で過去に実施されたワークショップが参考になると思う。
- ◇ 27日、28日にはどの程度固めて臨むのか。
 - 一定のものは例でもお示しをしながら、進めていく予定である。
- ◇ のべ3万人と比較されても仕方がないので、丹念に聞いた、推進会議とも丹念にやっていくことが必要である。別な形での説明、発信も進めることで対応していきたい。挨拶等の機会にも含めていく。
 - 推進会議への説明、地区集会、説明会等を予定しているが、11月頃に市民説明会を実施していきたい。その際のワークショップは、無作為抽出した市民実感を、イベントをまとめたような形にできないかと検討している。

(3) 分野別重点課題調査について

資料3-1、3-2により説明した。

- 曖昧なままで進めるのはいかがか。進め方について、決定したほうが良いのではないか。概算要求も並行して進んでいるので、その点の議論もしたほうが良いのではないか。
- 共通認識が必要である。ただ、課題については現時点では共通認識を持つ段階ではないが、市民の意見聴取の方法については認識を合わせる必要がある。もう一度タイムスケジュールとタスクを明確にして議論をする必要がある。この時点で、企画政策部で「誰に」「何を」「どのようにする」ということを明確にしていきたい。

平成 25 年度第 7 回新たな市政運営の総合的な指針策定検討委員会専門部
会議事概要

1 日時 2013 年 7 月 3 日（水）午前 9 時～正午

2 場所 職員会館ミーティングルーム

3 議題

(1) 専門部会・検討委員会の開催結果について

資料のとおり説明した。また、議員全員協議会の開催結果について報告した。

(2) 市民ワークショップの進め方について

- ・ 7 月以外にも 10 月～11 月に開催する旨が検討委員会で出されている。7 月は対象者を活動実績のある市民、思いの強い市民、10 月は無作為抽出で一般市民を中心とした進め方を想定している。関係団体については各部から周知ということをお願いしたい。重点課題の検討途中の案を示しながら議論をいただく。保育、手話を配置する。検討委員会委員は分担しない。

(グループの設定について)

- ・ 細分化した分野としては、防災、福祉、健康、子育て、教育、環境、まちづくり（都市基盤）、経済、文化、スポーツ、市民自治、市政全般、財政などが想定される。
- ・ 市議会の常任委員会から、建設経済（都市基盤・経済・観光）、厚生環境（福祉・健康・環境）、子ども文教（子育て・教育）、総務（防災・財政）という分野を基本として、参加者の状況や意見に応じて変更していく。
- ・ 1 グループ 15 人を基本として弾力的に対応する。
- ・ 用語なども含めて、ある程度、その分野に分かっているほうが良いのではないかと思う。
- ・ 委員の分担は、各常任委員会所管部課に対応することを基本とし、調整する。司会進行、書記、発表は各グループで決定しておく。
- ・ 重点施策の絞込みを目的としたワークショップで既に分野が絞られているのが疑問である。

- 重点施策の絞込みのための参考として意見をいただく。そのためには活動経験、取り組みへの考えがある方を中心に参加いただく。基本目標を前提にグループを分けていく。

(グループでの進行等について)

- ・ 基本的な進め方（シナリオ）を事務局で準備する。（①自己紹介と参加目的，②①の発言から複数のテーマを設定する。③グループ内で興味・関心があった発言について深掘りする。④③に対する質疑，意見をいただく。）
- ・ 保育室を確保しなければならないのではないか。
 - 談話室等に必要な資機材を準備して対応する。
 - 保育ボランティアは生涯学習部から連絡いただく。必要な資機材の確認もあわせて願います。
- ・ 発言の長い参加者等の調整をどのようにするか。1セッションでは調整ができないのではないか。
- ・ グループ内で話が噛み合わない（分野が離れすぎる）場合はどうするのか。
 - 進行上，同一グループ内での2セッション対応は可能である。
- ・ 司会進行，書記，発表，すべて専門部会委員で対応する。
- ・ 机を設置する方向で進める。
- ・ チラシは職員ポータルの掲示板に掲出する。
- ・ アンケートは，年代，地区，所属団体の類型，感想，自由記述欄を設ける。アンケート未提出者がいることを想定し，受付で資料，アンケート配布に加え，年代，男女別を予めいただしておく（アンケートとのダブりが極力ないように）。

(3) 関係団体への周知について

- ・ 市民ワークショップについては，案内文を準備し，チラシとセットで配布いただく方向で適宜お願いしたい。
- ・ 検討委員会では，各部対応となった。挨拶等のなかで口頭説明レベルということで既にお願している。

(4) 秋開催のワークショップについて

- ・ 説明、周知がメインで、重点事業、長期的に取り組む重要案件についての意見をもらうという方向になるものと考えている。
- ・ 切り口を変えるという点で無作為抽出を行い、一般市民、若い世代を中心に、ワークショップの開催をしたいと考えている。無作為抽出の際に市民満足度調査をセットで行いたい。
- ・ 無作為抽出であればアンケートだけで良いのではないか。
- ・ 広聴としては、意見を聴く場を設ける必要がある。指針の案内、周知も必要であるとは考えている。来られない市民にはアンケートに加えて、ワークショップでの意見提案ができるように対応する。
- ・ 会場として、市民センター、公民館はふるさと祭りの開催もあるので難しい。大学、市民会館、労働会館等を検討する。

(5) その他

- ・ 今後のスケジュールとして、全体の進捗状況について周知をしたほうが良いのではないか。
 - ニュースレターで取り上げる。
 - 壁紙の掲載回数を増やしていく。
- ・ 重点施策選定後は全く関係のなくなる部課が発生することが想定される。その段階になると一層周知が進まなくなると思う。
- ・ 指針ができた段階で、市政運営方針として、市の方向性を常識的に知っている状態をつくるということが必要であると思う。
 - 施政方針も同様に行うべきではないか。
- ・ 分野別重点課題調査の状況についてはどうか。
 - 施策レベルの調整のために、課題、施策はある程度例示している。
 - 各課から吸い上げたなかで、集約していく。
 - 中長期的な視点から現時点で取り組むべき施策を選定し、課題を確認していくという流れを取っている。
 - 調査結果については、事前に委員宛に送付いただきたい。